



第十一号



発行所
〒370-0131
伊勢崎市境米岡二七九-二
浄土真宗本願寺派弘教寺
寺報編集部
電話0270(七四)0573

仏縁を思う

弘教寺住職 中山英昭

近年県外から移って来られた門徒の方の来訪が多い。仕事の関係で、北海道や九州など遠く故郷を離れ、移り住んだ、いわゆる「離郷門徒」(りきようもん)の方々である。葬儀社の方が「浄土真宗の方は、宗派にこだわりませんね。」と言われることが多い。

真宗寺院の少ない県内事情もあって、一旦他宗派で葬儀をしたとしても、その後真宗の寺である私どもの寺を訪ねてくる方もある。

かつて北海道出身のAさんは、太田市に真宗寺院がないことから、電車に乗り、各駅で降り、尋ねまわって、探し出して来られた。

仏様の教えや仏様に出遇(あ)うご縁を仏縁というが、真宗の門徒の方には、祖父や祖母、父や母などの身近な人を通して、仏縁をいただいている場合が多い。もうすぐ弘教寺でも報恩講法要が

勤まるが、幼い日、祖父母に手を引かれ、分らないままに、法要に参拝し、お斎(おとき)を頂き、仏様に掌(て)を合わせた記憶を持つている人が多いのではないか。

先日来られた四十代のMさんは、父親の死が直接のきっかけと言われたが、祖母がお念仏を喜ばれていたことも、真宗を学びたい動機の一つにあげておられた。

蓮如上人ご一代記聞書に「すすんで聖教を求め、持つていく人の子孫には、仏法に深く帰依する人が出てくるものである。一度でも仏法に縁があつた人は、たとえふだん大まかであつても、何かの折にはつと気がつきやすく、また仏法に心を寄せるようになるものである。」と仏縁の大切さを示して下さつてい

る。

ご法事等の折に私は、「幼い子も連れて来て下さい。」と言つてゐる。若いお母さんの場合、騒いだり、泣いたり、周囲に迷惑をかけることで遠慮されるが、仏縁を結ぶ尊い機会であるように思うのである。薫習(くんじゅう)という言葉がある。香を焚(た)いた時、残り香(が)は、香を焚いた本人は気付かないが、他の人には分かる。知らないう



(本山御正忌報恩講:西本願寺HPより抜粋)

安穩 2011年(平成23年)
親鸞聖人750回
大遠忌法要厳修

ちに、服やからだに浸(し)み込んでゐるからである。そのことを薫習という。薫習のことばの如く、細かなことは、分からなくても何かを感じ取つてゐると確信してゐる。やがて仏縁として花開くことを期待してゐる。

親鸞聖人は、教行信証の総序に、「遠く宿縁を慶(よろこ)べ」と示されている。良き師や浄土の經典等の出遇いを通じて、お念仏のみ教えに巡りあえた大きな慶(よろこ)びを、この言葉に凝縮させてゐるように思うのである。

「人身受け難し、仏法聞き難し」というが人として、この世に生まれることは大変なことであるはず。さらに、仏法に出遇う機会はさらにまれである。あらゆる機会で、子どもさん、お孫さんに、尊い仏様との出遇いの場を作つていただきたいものである。 称名

弘教寺前任職・前坊守法要

去る九月六日、中山莞爾前任職二十七回忌並びに中山基子前坊守の一周忌が営まれ、組内住職、弘教寺六十余名が参列、故人を偲んだ。ここに当日参加され生前親しくされていた方々の追想を掲載させていただきます。

前任職を偲んで

栗原由夫

前任職は常に温顔で誠実、誰からも尊敬される模範的紳士でした。私より十四歳年長で、いろいろな面にあたりご指導いただきお世話になりました。

かつて私が生品小学校に在職していた当時、全保護者を対象とした講演会の講師をお願いし、「家庭教育」をテーマにお話をいただきましたが、長年にわたる福祉関係の歩みを通し、具体的なお話を伺い大変好評を得ました。

また何時だったかはつきりした記憶はありませんが、築地本願寺に於てご門主様をお迎えしての法座に出席し、会場移動の折、乗車



昭和56年仏婦創立10周年記念に

したバスが対向車と接触事故を起し、車内騒然の内に沈着な振る舞いで他の乗客を導かれた姿は、今も脳裏に去来します。また、常々会話の中に将来の寺のあるべき姿、抱負を語られていましたが、現在着々と事が進んで

いることに深い喜びを感じています。

前坊守を偲んで

藤井春枝

三十五年前、私が出産で入院し、お寺で幼かつた子供達を二ヶ月も預かって頂いて大変お世話になりました。その折、心にしみる優しさに触れ、今、思い出しても涙が出る想いで、それ以来のお付き合いです。

時折、故郷山口県のことや高杉晋作のことをお話し下さったり、口癖に「あの人に良くしてもらった。この人も良くしてもらった。」と言って、いつも周りの人を褒(ほ)めておられました。

私たち家族は、弘教寺の方々に導かれ、助けられてきたことを深く感謝しています。

前坊守(前坊守)を偲んで

杉本光子

前坊守さんに妹のように可愛がつてもらいましたが、よく喧嘩もしました。婦人会が出来て、毎回前坊守さんの手書きのレシピで料理をおそわり、時にはプロの料理人を招いて指導も受け、味つけにはスジが通っていました。

晩年は、話が出来なくとも前坊守さんの笑顔を見るだけで、私達は気持が和みました。一周忌の御仏前で手を合わせていると遺影が「味は控えめにね。」と語りかけてくるような気がしました。



前任職・前坊守法

仏教の豆知識

(4)

しょうしんねんぶつけ 正信念仏偈

「正信念仏偈」は、一般に正信偈として親しまれているお教です。親鸞聖人がお書きになった「教行信証」の行巻の終わりに、百二十句の偈頌(げじゆ)「詩とし、お念仏のおいわれ、教えを導いて下さった七人の師(七高僧)のご功績やみ教えに出遇えたよろこびを、簡潔にまとめられたものです。その意味では、教行信証のまとめと言えます。

昔から、真宗の門徒に一番親まれているお経と言っても良いと思います。

八代目蓮如上人により聖人の和讃を添えて、今日まで勤められている、正信偈・六首引きとなりました。

昔は朝夕自宅の仏壇に向かい家族そろって、「帰命無量寿如来 南無不可思議光・・」とお勤めしたお経が「正信偈」です。年輩の皆さんには幼少期、仏壇に向かい、お勤めした記憶があるのではないのでしょうか。

真宗門徒のたしなみとして正信偈のお勤めは、是非とも覚えていただきたいものです。

(吉田)

正信偈のはじま



仏教婦人会群馬組一日研修

『いのち・生命(いのち)・無量(いのち)』

十月三日、組仏婦総会公開講演会が、前橋市清光寺で開催されました。結城思聞先生(元フジテレビアナ・松倉悦郎師)のお話を胸裂ける思いで聞き、涙が止まりませんでした。阪神大震災で母子に押し寄せた惨事!倒壊した建物の下敷きになり、母は動けず少女は自力で脱出、通りがかりの人に助けを求めたが誰一人手を貸してもらえず。ガレキの下の母に声を掛けながら助けようと頑張ったが、十歳の少女にはなすすべも無い。近くに火の手が回り、母はしつかりつながつた手を離し、逃げるようにわが子を促した。二日後、母の所へ行き、焼け焦げた鍋に骨を拾い野球場の通路に立っていたら、巡回中のお巡りさんが今迄の出来事を聞き、無言のまま少女の煤(すす)だらけの服を払うだけ。母の無量(いのち)を賭けての愛を、結城先生は「命を慈しみ次の世代、次の世代に伝えて下さい。」と仰ってお話を締めくくられました。

慈母ありて 命なりけり

秋時雨

(泉 昌子)



著書「境遇」より

松倉悦郎1946年生 兵衛宗願寺派 阿南アウンサーを経て 浄土真宗本願寺住職に 庫山不動山善教寺住職に (結城思聞: ゆうきしもん)

「カラオケ愛好会」について

囲みの会第三弾として、カラオケ愛好会が発足しました。カラオケブームも盛んな頃からすれば、大分下火になったようですが、老人会や町内会の集まりにはまだ根強く残っているようです。私は若い頃、人前で歌うこと等考えられませんでした。バス旅行で車中歌



カラオケ愛好会の皆さん

わされるのがいやで目立たぬよう静かにどきどきしていたことを思い出します。今は違います。我さきに競って歌います。これも世の中の流れですね!

十月十七日、カラオケ愛好会の発会式をGSスタジオで行いました。参加者十七名、会費五百円、歌い放題、飲み放題午後一時半から四時まで楽しい一時を過ぎ事が出来ました。毎月一回の予定で

計画しております。大きな声でお腹から歌うと体に良いと言われています。是非、気軽に普段着で、出掛ける積もりで楽しく歌ってみませんか。沢山の方の参加をお待ちしております。希望の方は弘教寺まで。

(小林)

弘教寺パソコン教室から

弘教寺PC教室は五月よりスタートして、七月末ワードの初歩が終わり、参加者全員がおもいおもいに『弘教寺カラオケ愛好会』会員募集のポスターを作成しました。

八月、九月とお休みをしていましたが、十月七日よりエクセルを利用した会員名簿の作成から再開をし、名簿を活用して宛名のシールを作るところまで、進んでいます。

現在は二十四名の方が参加されて、ほとんど欠席もなく楽しく学び、年末までには年賀状の作成に挑戦出来たらと思っております。

毎月第二、第四水曜日午前九時半から開いています。新たに初歩からの参加も歓迎です。弘教寺までお申し込み下さい。

弘教寺ゴルフ会から

(西)



優勝者青山氏

弘教寺ゴルフ会が発足して二年半になります。第八回大会が去る九月九日、上武ゴルフ場で行われました。当日は境ライオンズクラブチャリティゴルフ大会の趣旨に協賛して、五組十七名が参加、日頃の腕前を競いました。天候にも恵まれ好スコアが続出し、青山達夫さんがグロス八十六、ネット六十四の成績で優勝しました。表彰式はお寺の本堂をお借りして行われ、会員相互の一層の親睦がはか

(伊部)

やっぱり！子どもの集い・第十四回 夏

曇った涼しい夏の一日が、「お祭り広場」で盛り上がりました。今年も大人気で景品が終わってしまっても、順番待ちの列がなかなか途切れないスマートボール。生き物に素手で触れる醍醐味を飽きることなく味わい、ペトボトル一杯のどじょうを持って、大満足



の子もたち。「しゃぼん玉の中に入れてよかったです。」と感想文をもらえたびっくりしゃぼん玉。子どもが入れる特大の輪で遊びました。部屋の中では、紙ひこうきと風ぐ



るま作り「丁寧に教えてもらって幾つも作り、飛ばしたり回したり、色や形も楽しみました。入院中のおばあちゃんと同室の方々にたくさん作って、プレゼントして喜ばれたと言う後日談も聞き、体験が広がる集いに感謝です。

住職のお話「ほとけさま」や、紙しばい「かしこいオウム」には、澄んだ瞳で熱心に耳を傾ける子どもたちでした。

(坊守)

この人「名坂豊章」さん(寄居町)

埼玉県寄居町で、奥様と九十二歳のお父様と三人で、酒の小売店を経営されていて、三人の子供達は既に独立されている。

三代前のご先祖が滋賀県からこの地に移る。あるとき古い仏壇の中からご先祖の法名と「釋廣如」(第二十代本山門主)の銘、花押が印された掛軸が、五本も出てきたという。

学生時代柔道を学ばれ堂々とした体格は往時を忍ばせる。祖母の影響で仏教に興味を持たれ、法隆寺の仏教講座(年一回)を十年間通って受講され、仏教全般の知識を豊富に学ばれている。

親鸞聖人には特に心ひかれるものを感じ、五年前、西本願寺の中央仏教学院受講に際し、前住職の発行された「群馬組報」を頼りに弘教寺とのお付き合いがはじまり、専修課程を昨年終了された。

「仏教について、いろいろ学んできましたが、親鸞聖人のお念仏のみ教えは、大変有難く、特に山崎龍明先生のお話は、わかりやすく親しみがありました。」とようやく船



が母港にたどり着いた安らぎを得々と語ってくださいました。

(玉田)

編集後記

稲穂が実りはじめると「かかし」の出演！終戦直後、学校で古着のかかしを作り田んぼに立て稲刈りの手伝いをした。稲穂の守りは宿命の難題で雀との駆け引きも永遠でしょう。孫に聞くと小学校では、かかしの歌は学ばないとのこと。詞の不適切な事かなとも思いますが、かかしには敵を傷つけず、おこぼれを見逃し共存精神を持つ日本人の心があると

(M・H)

行事予定 (平成20年12月~平成21年3月)

月別	弘教寺の行事予定		教区・群馬組の行事予定	
12月	6日	合同報恩講	6日	教区仏壯連盟理事会
	7日	報恩講法要	15~	組門信徒会運動研修協議会
	19日	婦人会例会	16日	(於伊香保)
	21日	壮年会例会(第6回)		
1月	1日	元旦会	9~	本山御正忌報恩講法要
	19日	婦人会例会	16日	
	24日	役員新年会		
2月	7日	記念講演会(中村富子師)	10日	組ビハラ(若宮苑涅槃会)
	17日	婦人会例会	21~	教区仏壯結成記念日研修
3月			22日	(於伊香保)
	15日	壮年会例会(第7回)	7日	教区仏壯連盟理事会
	27日	婦人会例会	17~	春の彼岸
			23日	